

立川市民オペラ公演2018 歌劇「椿姫」

3月17日(土)・18日(日) いよいよ開幕です



立川市民 オペラ通信

第2号



2018年3月 発行

立川市民オペラの会

〒190-0022

立川市錦町3-3-20

たましんRISURUホール

(立川市市民会館) 2階

(公財)立川市地域

文化振興財団 内

TEL042-526-1312

FAX042-525-6581

【立川市民オペラ合唱団】
合唱団はソリストと助演と合同で、本番さながらの「椿姫」を稽古しています。立ち稽古の初めのころから、パニエ（スカート）を膨らませる下着）を持っていらっしゃる方たちのご協力で、慣れるために代わる代わるパニエを付けています。パニエを穿く衣裳は、当合唱団では初めてで、衣裳を着けた場合の動きは今まで以上に注意が必要です。3月になると稽古日が増え、歌うのが大好きな合唱団員にとっては嬉しいことです。とは言うものの、仕事のやりくり、体力も必要で、最後の頑張りどころでしょうか。前回の「カルメン」に続き、CSで合唱を手伝ってくれていた若き歌い手さんたちが、キャストとして活躍されます。彼らの活躍も楽しみです。



【立川市民オペラ オーケストラ】
3月公演に向けた管弦楽の練習も佳境を迎え、ソリストを加えた練習にも集中力が高まってきました。様々な奏者が集まって結成された今回のオーケストラですが、1人ひとりが集中力を持ってオペラ公演に取り組んでおります。

連載「知っている面白くなる」

3幕の途中、余命わずか、すべての希望を失ったヴィオレッタのアリア「過ぎ去った日々」で、はじめて「traviata」という作曲者ヴェルディが拘ったオペラのタイトルが出てきます。アルフレードの誤解も解け、悲劇の発端であるジェルモンの祝福も受けることができるのですが、別れの時は近づきます。ソリストはそれぞれの思いを吐露しますが、筆者にはこの部分が本作のクライマックスであり、そのためにここまでの物語が紡がれたものと感じています。そして3回目の「Estaroi (不思議だわ)」でヴィオレッタは病気の苦痛から解放されるのですが・・・お見逃し、お聞き逃しなく。



H・S

「椿姫」は立川市民オペラの会で何度となく候補に挙がりながらも華やかな社交界の舞台を再現するにはクリアすべき様々な課題があり見送られてきました。この度、念願の上演に至りましたのは、この公演に携わる方々のオペラに対する情熱と実現させようとする強い意思により一人ひとりの意識が高まってきたこと、そして行動していくことで立川市の企業、団体、個人の多くの皆様のご理解、ご協力を賜ることができたことが大きかったと思います。今後オペラを通じて舞台芸術や皆で創り上げることの素晴らしさを広め「立川市民オペラの会」として立川に定着出来るよう一層の普及活動に取り組んでまいりますので、皆様ご支援のほどよろしくお願いいたします。

市民編集委員より

